春梅

ぢうろく

五

阿蘭陀巻之五

ぶくろへ入のまゝおし
ふくろ通も通も通り通
もとゝ川に中なかぶ奥金浦へ引ぞ
大いどこへつくこゝ。ちゝくさ待
順行ぶ所ほしゝ。ちゝくもつ
こゝだ。ちゝくもつ。ゆく天けん
ちゝ。ちゝ。ちゝ。

ちゝゝど十ぶ
ゆ。ゆ。あらとゝいへ
変ぞう
後もおず。たゞ紙の付る爪(つまり)ばかり。紙(うゝ)さう者が包(ん)て
あるもの。やうく笑(ゑみ)と遊ぶ。(ん)ぞ。(ひゝ)徒ばかり
きなぶるもの。してのゝい中あめ(モシ)一寸(ちゝ)おもゝ
とゆうゝ。すゝ(ふゝ)ふゝとぶ。ぐゝ(ふゝ)ぐゝ(ふゝ)ぐゝ(ふゝ)

海で泳ぐゆゑに。狸藻入くらぶ。お宮の場所

がりて藻ふぐり屠風の屏風とよむ 犬ぐ

ま昂伝ぶナ 哇以人不相ナニ 織でもなし 偶

座シウ、 爲 林 泉 漠 謾

畫引がたくさうゆゑ。よわ出ち口のうちぞいひ。

麦とまきわ部で居まて。人情のあさまふ。見ぶ

ゑれバおろく。屠風のかとのぞた。人のうちこ居

ゑる。生ゑやうぶと。 ゆかぐいゑ 出ぞず。うぶくゑてよむ

頃人不
雪屬
相讀
林泉
哭裏
漫稿
中自

酒嚢（さかぶくろ）まんぐ中間有幾（うちあり）ト　ふたこ蓋（ふた）ハ　ハ　ハ　ハ　ハ

さぶ。ん　ぐ　ん　ぐ　ん　ぐ　

性名ハ行ゝ書ハ
天 五 愚名ハ擬毛高太順
上て犬ゝ戸ス 犬 今ゝハ唯ゝおなぐゝゝんゞ 犬 イヤ
中ゝ者ゝの後ハ毛ゝ
ふゝ。兼ゝ見ゝの義用
聞ゝゝと。ゝ耳ゝ入ゝ彩ゝ一胡行
時ゝりゝゝ婦面の花と
かゝゝゝ人章絲のなゝゝ
知ゝゝゝ今高帯のゝ
ゝ。ゝ敬服仕ルトゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝ

かくへ和尚かつぷれきんぐ
ぐ　ぜ　ぜ　ぜ

事もあるまじく。一つの功とゝ色もへうし是ハ大作こまうゆびゝ

さるも儀ゝ髮と
ゝ髮ハなし 犬 鳴琴 是ハ上ハ作 輕羅
さへよれよつゝよ
着 細腰 ゝ是ハ 鬱金 ゝ色もへ一寸
きゝい
乳 ゝ色へやゝ色もゝ（ト云ハ色ゝ色ゝ色ゝ

それは、まで、ハ、指さしハやめトさう。犬の指ちを
指さかゞ。五臓の天和、醫師冥加。神の指ちひを
かけまくう〳〵ハ。豆腐ハ一切ト。犬ハ成ぐ更
て銀ひ指ちさ。佐ちゆんぼ。ちさがひまもう
ぶうまれバ犬蓋石侵と癌の肩ひぬとの小ず和。
手開中ニ入て軍と起さんを敬ふ。西背面見
如何太アホウ蛇ちさまする。ちさ。ちさ。

お形とかくんおち
つゐこぶるとやめて 犬 ちと
寄のなさくこと
そば 太 ラ
ゆそ〜!

エア待ふまも ト外のとあ
まぐらす モシナ。芝居へいきたい角こと

犬 はち白いこよ。夫も笑ナ 廊中へくくとおもひで
途中で由男と奥ちまるまるしバ。コ六日了郎

ぴんぐ エア内儀ぶ
ぴんぐんでぢと芝居へ色かうり
まもうと。夫程夫程よりあつ色ぷつ
ぷ。ゆ
ぶのうち見ぶ
いさ向う。邪魔見芝居とくとぶ同
ぶ

で来て高くなる。蓮へといふ花と咲いて
咲く。ちんちんやの雨傘の骨とがつ。西より
出る。剣山えんせと。
蓮よりまくと蓮高て高まる真後うつ。大さんく
とゑぶ。ぜんぜんやくもの。袖よお柳
めづ。第三にいて山の毒一句づす
ぢよ。来て見ひとひる。ひいぢ。大方自殺
りぢやあうつ。まと。小雨が主で

側へ付て置て行芝居へいくなら・さ
ゝ
大ぶらくまつとるよ・長屋の河岸や体でくど
や清川先生とテレメシテンのおやぢを世話
圓山書画の書会がある・是ハ来て見て
形まねをぶらくとぶつて毎日稽古
書て見せるよ・イヤかけあまる自作の詩文書けぬの
イヤ能無の十人物和して見るのとぶつ弟子入るよ

トいふ角ぶ。ぶをハアレニコレト。ロの角でいふて歩ぶ。ぶ。犬ハ犬
うしと言てあづうもあらうびばきさいやこうしりひ

まんのふ博学者よも嘸おこまりさん。大方屋敷の御

なまーたぶ。門をよりハ四首ぐ腐ませう。犬そ家ア

犬意あげてありつぐなんよ。ぶふと猫屋町の家び

事ぶ香意屋ぶおやぐと。一力ぶたたつがぶ第。階ぶ

の連中ハ三花の手ンのぐト知さ新するあ所ぶ出ぶ

そろくなづぐかけまづも。あまりきぐく

かぐこの溶ぶ。犬 犬あるぶの中ぶよりづきの外

かくふるアノ天下一人自見和泉やさん知て
うエ 犬 はぐちちづきで。ゆるもおびようさよ 太 よと、
さんよびなまさげち。ごとかく来なまさんトいと
何うくちちゆくゆくはの内で 太 おさんかく中屋の磯次郎
りぶたまいふとくたづのうけ
いえやておんやさまさふませ 犬 磯次ウアレハ兄弟
ぶんぶよ 太 かんよぶとよ 知恩がおるまんをすぶふ
ト御中ないまとひとふとまかかと
ちちいとぶ 犬 それでへりさんを大家

知てんで　とこをゆきさうといふ
やうな男とは三てぶ　ゆらかゝハこゝをて　ゑ田の
名もさのあれでおかゝ祢と　ておらんぶ祢　あといふ人
ゝゝやくらい中でいたんかゝ　ゆらくゝ　ゆいなず
ぶつゝ

大魚とゝぶ　吐月　ゑ九へ　せんく　はまていくゝやうさ

太　おもんかゝゆきさんの　井戸　九市ゝん　ゑへ　さゝも　ゑて　人ゝ　ゝ　ゝ　

ゑぐらひでおろかなるこゝろをもつて
ゆく　如仏

ゆくゝゝ
時刻ゝゝ
ゆくゝゝ
ゆくゝゝ
ゆく

まづ。勇侍(ちろう)ちゃんを義理(ぎり)のたぬきぶるまつ
かう九市さんはいつまでも中と言はてあるかう。
なるまつもの。又かるさも乗(なり)入つる。
よう奥さん(たの)(ぐ)(ま)(び)かまつ。
さんかるまつ。お氣のどくさんおうつ。お用(よう)で
お休(やす)みなさつと言へ。(えんぎ)ぺ。のふいちもと
休みなる。(ちゃう)呼さんをうつ九市さんへよつ

おきたさまをなでぽんぽんと一つ
おきあがらせて
さびーかんとぴいんとひくてへゆくぺたぺたと
ある
みむき火鉢(ひばち)とそばにすわりふるえごえで
つぶやいたそのいとぱ今ばかりあるまじ
人ぞうぞ(くうそ)ぞやもいいかずぶ(びんぼう)人の死ぶ(しん)を
さやふるものごとぞ(いしや)書作(かき)けれたるへ(えま)とい(ぬ)
家(ど)とそこ(ひ)ーへおりひ(へきて)ぬめりまきまとかう

口吸(すい)てのぞらてうくちて長(ながい)ことしばし。

夜(よ)ぐんのあがまをくうまく紙とあてぬ紙(かみ)ぐて

紙(かみ)ぬりあり。洗(あら)もあず。

まつこまひぐりぐと。えんど妙陳子(しんこ)を舟(ふね)

むうふの行(ゆく)よもあ一ぐん島(しま)ぬ船(ふね)をぬあ

ぐぐ先(さき)のうちなぐめ。アホウ〳〵〳〵

ぬうんぐ後(あと)の五了

たまもゆく末やハ
かすかなる
笑ひうどん
うくひすはらくと
おもはざるらん
長
行
湖月亭
美笑画

西山文庫

化黄粱夢驕。丈夫形如似。生周
墨。是櫛夢子。是粉。性是主極。
相似。便味大昊者也。嗚呼。
輝ドラ玉輝。生。同樣風
大学序。
及而。意。全集。

不能離絃扇盛衰起
座源之馳也不必可謂豪矣
釋子之釋隱龍而茅之於
豪彩之畫

戊午春日

紹孫跋

阿波文庫

借着行長こゝ人作

浮世銀世界　全三冊

世界を見きわめんとて地獄もあり極楽もあり
ちゝをとおもうくかゝる浮世

苦界七年後内

遊所へ奉公してかゝる嫁とる
までのうれしづゝ彼邪魔の
こゝと目のおこゝろあるなり

言賊粹仙傳　全五冊

ちゝ平氏の仙人を面白う
ちゞつけかきあらわす
ゝゝ浮世かるた

画本　和歌浦

こゝてとゝゝゝゝ第やの
がこのやむとゝ紙
くゝつくゝゝ　全三冊

かをとゝ出板江戸書肆仕を出ことさんを次をゝへ　一ゝ

盃廻り玉くしげ海　全部三冊

此本八形しきくるまの重法の果事を

あらためる月給ひまちの酒名人の甘川なぞ

弱廻り小生薬あきの中生を書刻う

寛政十午春新刻

平安書林　美屋孫兵衛

浪華書林　河南喜兵衛

河内屋太助

1002319497